

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (名張青峰高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	新時代をたくましく生き抜く未来人を育てる学校 [育む3つの力] ○ 未来を拓く力 自己実現・進路実現を図ることができる力の育成 ○ グローバル化社会で活躍する力 グローバルな視点で意思決定・意思疎通を行い、情報を利活用できる力の育成 ○ 人とつながる力 相互に理解し合えるコミュニケーション力、社会に参画できる力の育成	
	育みたい 児童生徒像	学力と社会への参画力をともにそなえ、新時代をたくましく生き抜く生徒
(2)	ありたい 教職員像	生徒をあたたかく受容し支える「丁寧な教育」と、生徒に課題を示して壁を乗り越えさせる「鍛える教育」の両面を、場面や役割に応じた的確に展開し、「育みたい生徒像」の実現を図る教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 名張青峰高校に進学した理由 (入学後アンケートより) 進学のための学習ができる(38%) , グローバル教育に力を入れている(20%)</p> <p><保護者> 名張青峰高校に期待すること (夏の保護者アンケートより) 学力の向上(65%) , 希望進路の実現(60%) , 授業内容の充実 (44%)</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><中学校> 青峰高校への期待 (体験入学アンケート) 勉強と部活動の両立を目指したい(30%) 英語の能力を高めたい(18%) 新しい学校に魅力 (18%)</p> <p><地域> 本校生徒と地域住民との直接の交流 適切な情報発信(学校関係者評価委員より)</p>	<p><中学校> 基礎学力等の学習指導 (84.6%) 基本的な生活習慣等の生徒指導 (76.9%)</p> <p><地域> 地域における生徒の見守り (53.8%) 学校の活動への理解(43.6%) 生徒が活躍する場の提供(38.5%)</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○卒業生の進路先は地域・保護者・中学校としても関心を持っている。学校とし分析・検証を行い、今後も普通科高校として進路指導をしっかりと行えるようにして欲しい。</p> <p>○大学入試の多様化を受け、授業・部活動・地域との連携などを行うことでより充実した高校生活を送ることが必要ではないか。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○人権・同和教育や生徒指導の立場からも生徒の学力向上の取組を行っているが、今後は、生徒一人一人の学力を向上させるための質の高い授業や低学年からの学習習慣確立に向けた取組を学校全体として効果的に実施する必要がある。</p> <p>○生徒の進路希望の実現に向けてきめ細やかな進路指導を行っているが、新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、英語活用能力のさらなる向上、探究活動の充実や e-ポートフォリオの導入を行う必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○これまでの取組を総括し、教育課程や年間行事の見直し、部活動や各種委員会の精選を進める必要がある。</p> <p>○入学定員を充足することが課題となっている状況が続いている。名張市内をはじめ地元の中学生から選ばれ続ける学校として、特色や魅力を持ち発信する必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○質の高い授業と進路指導の充実 充実した ICT 環境を基に、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成するための授業改善に取り組む。また、生徒の進路に係る様々な情報を集積・活用して、四年制大学・短期大学・専門学校・就職など幅広い進路希望を実現する。</p> <p>○基本的生活習慣の確立と倫理観、規範意識、社会性の育成 学習活動と部活動の両立をはじめ、健全な学校生活を送ることができるよう基本的な生活習慣を確立させるとともに、助け合い、励まし合い、高め合う集団づくりを通して命を大切にすることや思いやりの心などの倫理観、規範意識、社会性を育成する。</p>
学校運営等	<p>○選ばれ続ける学校づくりの推進 中学生をはじめ地域から積極的に選ばれ続ける学校となるよう、学校の特色化を進め魅力のある教育内容を創造する。また、積極的な情報発信、地域の関係機関との連携・協力を推進し、地域に対する学校のブランド力の強化を進める。</p> <p>○生徒のための教職員組織づくり 教職員が生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、目的・目標とそれらを達成するための手段を共有して主体的に実践できる教職員組織づくりを進めるとともに、安全・安心で心身ともに健康的な生活を送ることのできる職場づくりを行う。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○質の高い授業と進路指導の充実	<p>[活動指標]</p> <p>○相互の授業参観を各自年2回以上実施する。</p> <p>○より深い学びを主体的に行えるよう、ICTを活用した振り返りをすべての授業で実施する。</p>	<p>1回未満/人</p> <p>1年次「社会と情報」及び「総合的な探究の時間」で先行実施。</p>	
	<p>[成果指標]</p> <p>○授業で知識技能の向上を感じた生徒割合 80%以上</p> <p>○授業でより深く学びたいと感じた生徒割合 90%以上</p>	<p>88.9%</p> <p>84.5%</p>	
○基本的生活習慣の確立と倫理観、規範意識、社会性の育成	<p>[活動指標]</p> <p>○長期休業中における1日あたりの平均学習時間3年次生180分以上、1・2年次生90分以上</p>	<p>3年次 285分</p> <p>1・2年次 49.3分</p>	
	<p>[成果指標]</p> <p>○国公立大学出願数 100以上</p>	<p>59</p>	
	<p>[活動指標]</p> <p>○登校指導、バス乗車指導、挨拶運動、身だしなみ指導のべ200回以上</p> <p>○講演会・研修会の実施（生徒年間3回以上、教職員年間1回以上）</p>	<p>210回</p> <p>生徒：4回実施 教職員：4回実施</p>	
	<p>[成果指標]</p> <p>○社会性のある行動や思いやりのある行動を心掛ける生徒の割合 90%以上</p> <p>○人権が尊重されていると感じている生徒の割合 90%以上</p>	<p>1年次 99%、 3年次 92.4%</p> <p>3年次 92.5%</p>	

改善課題

- 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、生徒一人ひとりの学力を向上させるための深い学びを実現する質の高い授業の構築が急務である。
- グローバル社会で必要とされる人権感覚の育成や学習習慣も含めた生活習慣の確立をより効果的に図る必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
○選ばれ続ける学校づくりの推進	[活動指標] ○報道機関への資料提供年間30回以上。	36件	
	○中学校への組織的な情報提供年間3回以上	4回	
○生徒のための教職員組織づくり	[成果指標] ○三重県立高等学校進学希望状況(12月)で、本校希望者数280名以上	262名	
	[活動指標] ○定時退校日を月2日実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合85%を目指す。	92.0%	
	○部活動運営方針に基づき休養日を設定した部活動の割合100%を目指す。	100%	
	○放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合85%を目指す。	71.5%	
	[成果指標] ○月80時間を超える時間外労働者の年間延べ人数を昨年比50%削減。	35%削減	
	○時間外労働を昨年比月2時間削減 ○休暇取得を年0.5日増加(目標19.9日)	4時間削減 20.8日	

改善課題

- 中学校・地域と連携し、選ばれる学校となるための特色や魅力の発信方法等を工夫する必要がある。
- 新学習指導要領に向けた教育課程、年間行事、部活動や各種委員会について大胆な精選・改革を進め、教職員のリソースを必要な個所に集中させる必要がある

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○名張青峰高校の魅力を発信するために、「SNSの活用」、「地域との合同作業」、「小学校への情報発信」や「中学校等の教職員研修への協力」等多面的な方策を考えてほしい。 ○深い学びの実践としてコンクール等の応募内容から、成果は確実にできていると思うので今後も継続して取り組んで欲しい。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育全体計画を作成し、組織的な進路指導の構築を図る。 ○今までのグローバル教育やICT教育の取組みをベースに新学習指導要領を意識した授業構築を学校全体で取り組む。 ○地域からの評価の高い生徒指導・人権教育の取組みについて、その成果を継続するとともに、より高度な次元に進化させる必要がある。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学生やその保護者及び教職員に対し本校の特徴や魅力を直接発信することにより、より積極的な進路指導につなげる。 ○国や県の動向に注視するとともに、個々の教職員の勤務時間についての意識を高める。